

第5次犬山市総合計画の策定に向けた

農事組合意識調査 報告書

平成21年6月

【調査概要】

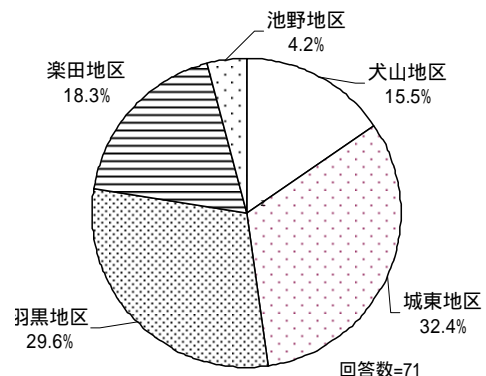
- 1 調査の目的 市内の農業の現状や課題、農業に携わっている方々の意向等を把握し、新たな計画の施策に反映することを目的とします。
- 2 調査の対象 犬山市内の農事組合 [98 組合]
- 3 調査項目・内容と活用方法

調査項目	調査内容
回答者について	属性として、組合規模と年代構成、所在地区、経営規模、所得形態、農業所得の状況、主な生産農畜産物を把握します。
農業経営上の問題点	農業経営者から見た、犬山市の農業の課題を把握します。
今後の経営に対する考え方	今後予想される農業経営の将来的な動きを把握します。
農業振興のために必要な取組み	農業振興策全般について必要な取組みを把握します。
担い手の育成・確保	特に若年層の担い手育成・確保の視点から、必要な取組みを把握します。
農地利用促進のための取組み	遊休農地や市街地の小規模農地などの活用と活性化のために必要な取組みの方向性を把握します。
自由意見	まちづくりに関する自由な意見・提案を聴取します。

- 4 調査の方法 郵送による配布・回収
- 5 調査期間 平成21年5月22日(金)～6月5日(金)
- 6 回収状況

配布数	98
有効回収数	71
有効回収率	72.4%

選択肢	割合	回答数
犬山地区	15.5%	11
城東地区	32.4%	23
羽黒地区	29.6%	21
楽田地区	18.3%	13
池野地区	4.2%	3



設問1 貴組合の組合員構成についてお答えください。

【組合規模】

表1 組合規模

人数	組合数	割合
10名未満	9	13.0%
10名以上19名以下	20	29.0%
20名以上29名以下	20	29.0%
30名以上39名以下	13	18.8%
40名以上49名以下	5	7.2%
50名以上59名以下	2	2.9%
60名以上	0	0.0%

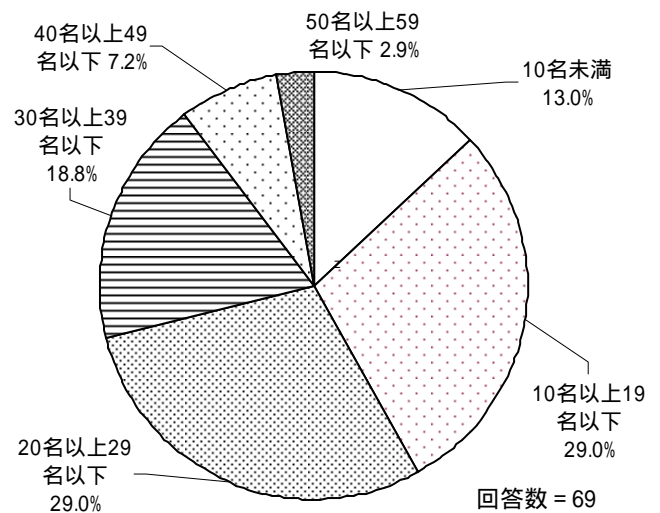


図1 組合規模

表2 年齢構成

年代	人数	割合
20代	1	0.1%
30代	13	0.9%
40代	85	5.8%
50代	294	20.1%
60代	576	39.4%
70代以上	494	33.8%

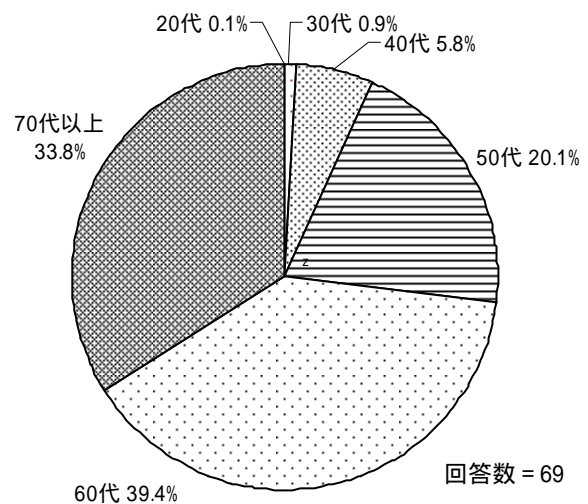
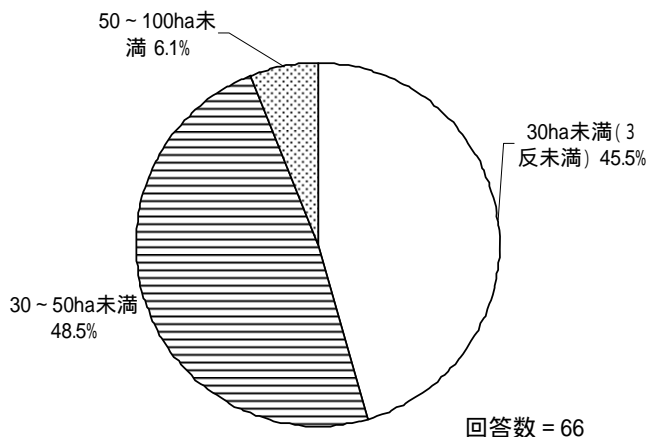


図2 年齢構成

設問2 組合員の平均的な経営規模をお答えください。

表3 経営規模

選択肢	割合	回答数
30ha未満(3反未満)	45.5%	30
30～50ha未満	48.5%	32
50～100ha未満	6.1%	4



「30ha未満」、「30～50ha未満」がそれぞれ5割近くを占め、合計で全体の9割以上。

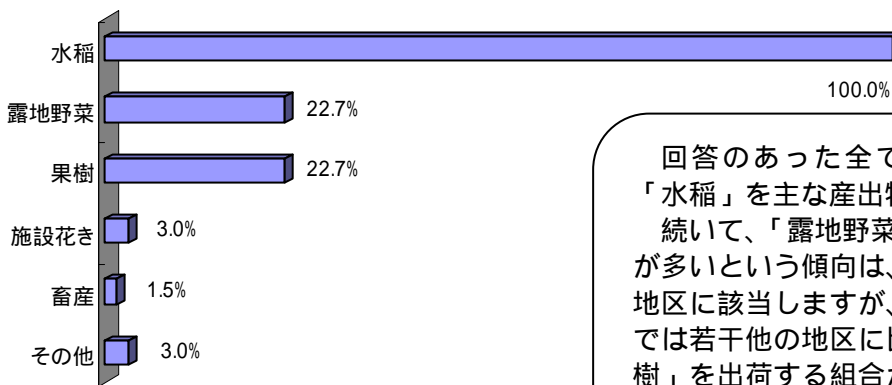
地区別に見ても大きな差異は見られませんが、羽黒地区、城東地区に比較的大規模な耕作面積を有する傾向にある。

設問3 主な農畜産物（産出額の多い物）をお答えください。

あてはまるものすべてに回答

表4 主な農畜産物（産出額の多い物）

選択肢	割合	回答数
水稲	100.0%	66
露地野菜	22.7%	15
果樹	22.7%	15
施設花き	3.0%	2
畜産	1.5%	1
その他	3.0%	2



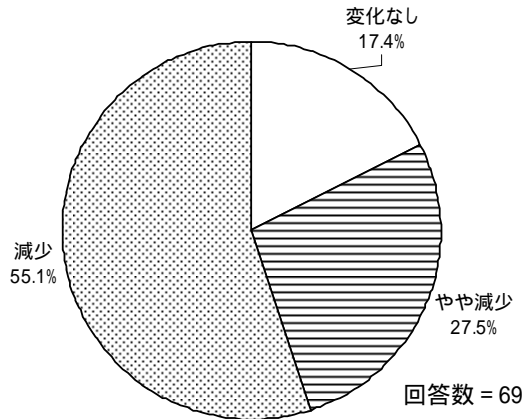
回答のあった全ての組合で「水稲」を主な産出物である。

続いて、「露地野菜」、「果樹」が多いという傾向は、すべての地区に該当しますが、楽田地区では若干他の地区に比べて「果樹」を出荷する組合が多い割合を占める。

設問4 10年前と比較した組合員の方々の年間農業所得の傾向をどう感じますか。

表5 10年前と比較した年間農業所得の傾向

選択肢	割合	回答数
上昇	0.0%	0
やや上昇	0.0%	0
変化なし	17.4%	12
やや減少	27.5%	19
減少	55.1%	38



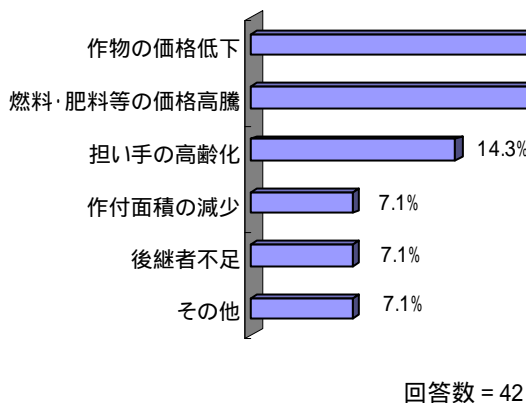
「やや減少」、「減少」と回答した組合が8割を超えた。
その主な原因として示されたのは、下欄のとおり（選択制ではなく、自由記述で回答）

図5 10年前と比較した年間農業所得の傾向

表6 所得が「減少」した主な原因

内容	割合	回答数
作物の価格低下	41.1%	23
燃料・肥料等の価格高騰	23.2%	13
担い手の高齢化	14.3%	8
作付面積の減少	7.1%	4
後継者不足	7.1%	4
その他	7.1%	4

（回答組合数：42 複数回答可）



主な原因として「作物の価格低下」が挙げた組合が4割を超えた。
「作物の価格低下」を挙げる方の大半が、併せて「燃料・肥料等の価格高騰」を回答。
また、農業経営者自身の人的要因（「担い手の高齢化」、「後継者不足」）を挙げた組合は2割強となり、所得減少にも影響している。

図6 所得が「減少」した主な原因

設問5 組合員の中で多く見られる農業形態は何ですか。

表7 多く見られる農業形態

選択肢	割合	回答数
農業を主に行っており、農業所得を主としている農家が多い	0.0%	0
農業以外の仕事を行っているが、農業所得を主としている農家が多い	1.4%	1
主に農業以外の仕事を行っており、農業以外の所得を主としている農家が多い	98.6%	69

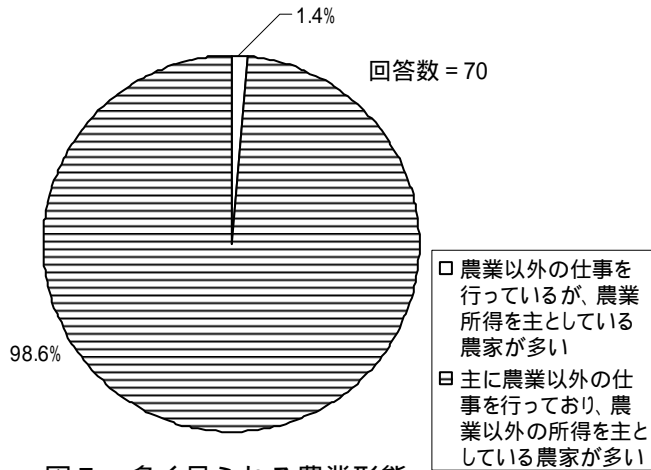


図7 多く見られる農業形態

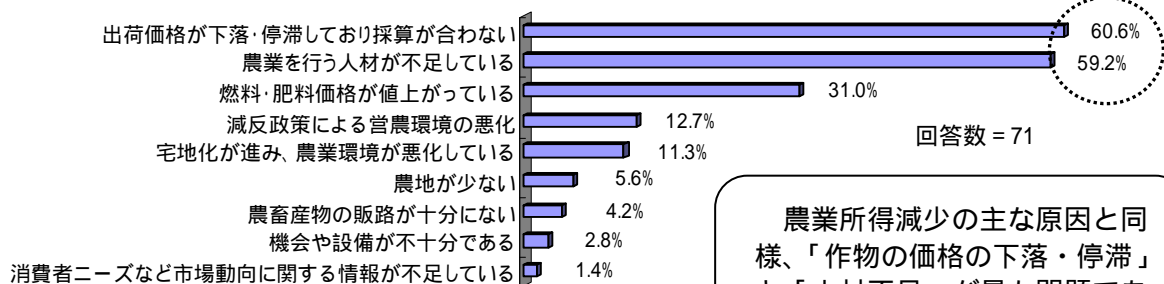
組合の代表者の方の客観的な判断ではあるものの、全市的に農業所得が主としている農家がほとんどいない。

設問6 農業経営上、最も問題だと感じる点は何ですか。

あてはまるもの2つまで回答

表8 農業経営上の問題点

選択肢	割合	回答数
農業を行う人材が不足している	59.2%	42
機会や設備が不十分である	2.8%	2
燃料・肥料価格が値上がっている	31.0%	22
農畜産物の販路が十分でない	4.2%	3
消費者ニーズなど市場動向に関する情報が不足している	1.4%	1
出荷価格が下落・停滞しており採算が合わない	60.6%	43
宅地化が進み、農業環境が悪化している	11.3%	8
農地が少ない	5.6%	4
減反政策による営農環境の悪化	12.7%	9



農業所得減少の主な原因と同様、「作物の価格の下落・停滞」と「人材不足」が最も問題であると認識している組合が多い。

図8 農業経営上の問題点

設問7 組合では自身の今後の農業（経営・規模など）についてどのような考えを持った人が多いと思いますか。

あてはまるもの1つを回答

表9 組合員の今後の農業（経営・規模など）に対する考え

選択肢	割合	回答数
積極的に拡大していく	1.4%	1
現状を維持する	28.6%	20
縮小していく	31.4%	22
農業をやめて他者に農地として貸す	32.9%	23
わからない	5.7%	4

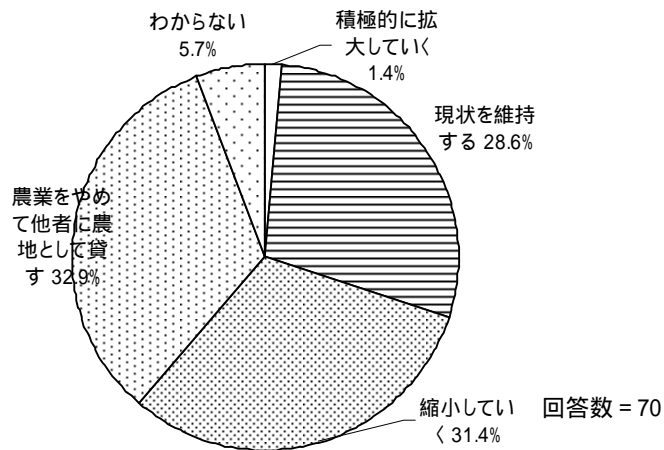


図9 組合員の今後の農業（経営・規模など）に対する考え

組合の代表者の推測によるところはあるものの、全体では「現状維持」、「縮小」、「農業をやめて農地を貸与」というのがほぼ同割合の回答。

地区別に見ると、「農業をやめて農地を貸与」と回答したのは特に犬山地区（45.5%）、城東地区（39.1%）で高い割合を占めた。

設問8 犬山市の今後の農業振興のために必要だと感じる取り組みは何ですか。

あてはまるもの3つまで回答

表10 今後の農業振興に必要な取り組み

選択肢	割合	回答数
農業イベントや市民農園などを通じて地域住民が農業にふれる機会を増やす	25.4%	18
小中学校に於いて地域の農業や食について体験・学習する機会を増やす	21.1%	15
地域でとれた農畜産物を地域住民が消費できるよう農産物直売場等を整備する	42.3%	30
将来的に農業に携わる後継者を育てる	36.6%	26
有機農業の推進により環境保全型農業を確立する	11.3%	8
特産品の生産や開発、ブランド化に力を入れる	25.4%	18
加工・流通・商業のネットワーク体制を整え、生産から販売までの流れを確立する	22.5%	16
既存の遊休化した農地の活用を図る	40.8%	29
効率的・安定的な農業経営を確保するため、集落営農や法人化を促進する	31.0%	22
その他	2.8%	2

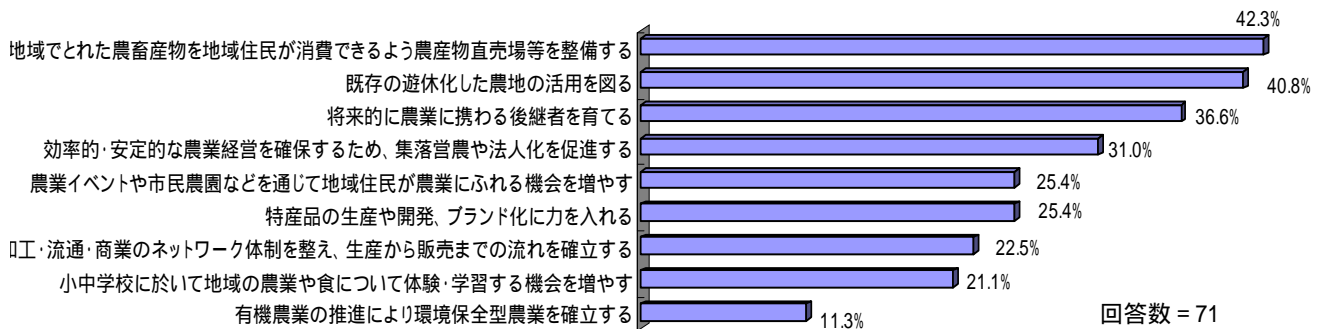


図10 今後の農業振興に必要な取り組み

生産者の新たな“販売拠点の確保”、市民の健康を考えた“地産地消”という側面からも効果が期待できる「地域でとれた農畜産物を地域住民が消費できるよう農作物直売場等を整備する」と回答した組合が4割を超えています。

続いて、回答が多かったのが「遊休農地の活用」と「後継者の育成」で、将来にむかって“新たな「土地」・「人」の掘り起こし”の必要性を感じている組合が多い。

なかでも、城東地区・楽田地区については、他の選択肢に比べ「遊休農地の活用」を選択する組合の割合が多い。

設問9 農業の担い手育成・確保のために必要な取り組みは何ですか。
あてはまるもの2つを回答

表 11 担い手育成・確保に必要な取り組み

選択肢	割合	回答数
農業の後継者組織の活動を充実させる	28.2%	20
集落営農組織の育成など農業経営の基盤を強化する	36.6%	26
新規での就農機会の充実など、担い手のすそ野の拡大を図る	14.1%	10
認定農業者制度の運用により、意欲的な農業者を育成する	19.7%	14
家族以外の農業従事者の確保・拡大を図る	15.5%	11
農業所得を増やす施策を充実する	57.7%	41

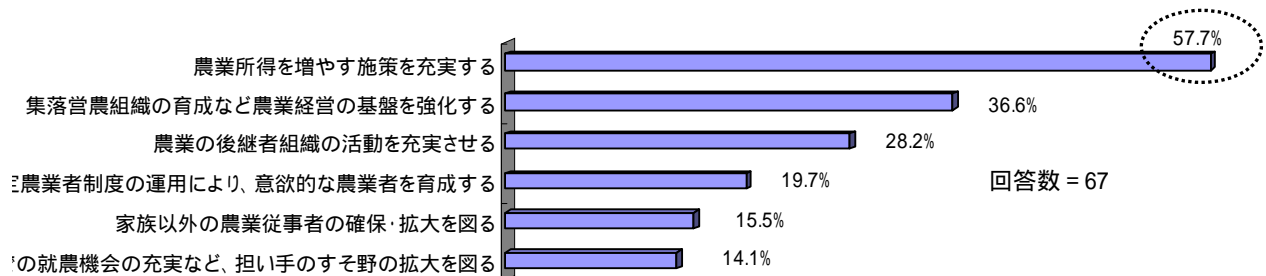


図 11 担い手育成・確保に必要な取り組み

41の組合が、「農業所得を増やす施策を充実する」ことが、担い手育成・確保には必要であると回答しており、職業として農業を選択してもらうためには、所得が大きな影響を与えることがわかる。

続いて、個々の農業者が活動するのではなく、組織として農業に取り組めるような「集落営農組織の育成など農業経営の基盤を強化する」ことを選ぶ組合が多い。

この2つの傾向は、地区による偏りはなく、全市的に同様の取り組みの必要性を感じている組合が多い。

設問 10 市内農地（971ha）の約1割を占めている遊休農地について、将来的にどのようにしたらよいと考えますか。
 あてはまるもの2つまで回答

表 12 遊休農地の将来的な考え方

選択肢	割合	回答数
既存の農業者への支援を充実し、農地の再生を図る	34.8%	24
営農意欲の高い担い手への農地集積を促進し、農地の再生を図る	46.4%	32
企業など新たな担い手の参入を促進し、農地の再生を図る	17.4%	12
市民農園や体験農園、教育ファームなどとしての利用を促進する	33.3%	23
景観作物の植栽、植林などにより、自然的な利用で再生を図る	17.4%	12
農地転用により農業利用以外の有効活用を図る	30.4%	21
その他	1.4%	1

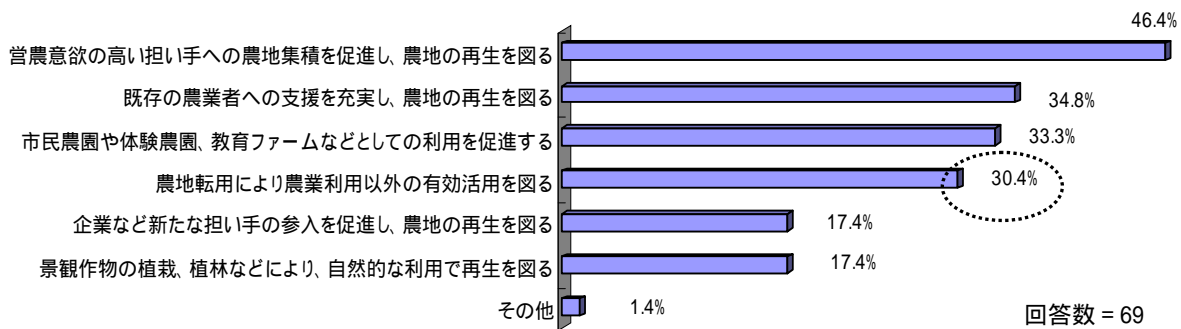


図 12 遊休農地の将来的な考え方

今後の農業振興には「遊休農地の活用」が必要だとの回答が多かった城東地区のほか、羽黒地区の組合で特に「営農意欲の高い担い手への農業集積の促進による農業再生」が望ましいとする回答が特に多い。

今回の質問では、遊休農地の所在を、市街化区域又は市街化調整区域のいずれか指定していないため、現実的に、法規制的により可能か否かの課題はあるものの、“農地の再生”を期待する回答と併せ、「農地転用により農業利用以外の有効活用を図る」ことが望ましいと回答する組合も多く、中には、農業利用以外の有効活用のみを選択する回答もあった。

設問 11 犬山市の発展のために、意見や提案(アイデア)をお持ちでしたら、お聞かせください。

注) 以下の記載は、回答どおりの原文です。

農業施策について

犬山市は、江南・大口・岩倉・扶桑と比較するに、水田面積は現行でも最高値でしょうか。若し、抜きんで面積が多いとすれば、犬山市梅坪地区を水田から市街化区域へ変更することは、将来的に有望と思われますが…。市税の増収に結びつくと思われる。

学校給食の食材に、地元産を積極的に利用して下さい。玉ネギ・ネギ・馬鈴薯・サツマ芋・里芋・小松菜・ほうれん草等は良質なものが沢山できます。米も(愛知かおり)コシヒカリと同等のものがあります。

・農協はいらない。・組合員にメリットがない。・市役所で前向いてやってほしいと思う。

農協が遊休農地を借り上げ、営農部門を作る。

農業経営1本で生計を立てることは無理。従って大規模組織による集団化(例えば、現在手持ちの農業機械を活用した地区集団形成)と農地の集約化が必要。または遊休農地を作らない為には排水の出来る農地の市民農園などへの展換(市又は農協などが地主から借借が望ましい)によって有効活用を図れないか。

農業所得を増やす施策を充実する事によって農業を行う。人材を確保していく。

農作物を売れる場所を作ってほしい。朝市は1週間に1~2日だけで個人個人がついてなくてはいけない。犬山市はJA愛知北農協に所属し、JA愛知北のグリーンショップは岩倉しかない。車で30分以上もかけて行けない。犬山市内にグリーンショップを作ってほしい。犬山農協の横の国道41号線沿いに道の駅があったら最高です。アンケートを取るだけで終わらず、少しは実行して下さいね。

早場米(早生)の生産の促進を計画。

非農家(国地居住者等)のなかの高齢者(退職者等)で農業に関心のある人達を組成し、育成する。この人達にJAと協力し、機械の貸出等を行い、米作を行う。市民農園のみでなく米作にも。

農業について、例えば思いつきで言うと、完璧なプロ(農業の)昔プロだが、今70代・80代。その子どもの世代はサラリーマン。昔プロの親が死んで、子ども世代の農業をやったことのない世代が世帯主になっている。ぱっと思いつくだけで、非常にライフスタイル・人生が多様化しています。それぞれの人生を持った方たちをもう少し分類し、的をしばった対策をたてる必要があるとおもわれます。(ex.大規模に農業をやりたい人 そうい情報が必要でしょう 農業だけでやっていけない人 農地を放棄していく人が多いでしょう) ・

〔米利用再生可能社会〕 ・日本人の食習慣から米の利用拡大政策を促進すること。 ・永年の水稻営農の継続が農家にとって、技術的にも有利。 ・食用米栽培に加えて、多用途米作りの環境整備が必要。 ・多用途米は畜産用飼料米の他にエタノール原料米作りの環境整備、一多収量米品種の開発、米 エタノール工場の整備、生産支援、補助金による作付農家の支援等、再生可能燃料利用環境整備、エタノール車の普及。

市場価格が余りにも安いので価格の安定を願う。採算があえば農業は安定すると思う。現状では後継者もいないと思う。

市職員及びJA等職員の個別話し合いの場を数多く取り入れる必要が大事
道の駅・農産物直売店整備と、観光を一体化する。
各農事組合間の連絡を取り合って、問題を話し合う。

まちづくり全般について

<p>・観光地犬山として、宿泊施設等充実を計り、停滞形観光地をめざす。(客にお金を落としてもらう)</p> <p>・歴史のある犬山を世の中にアピールするとともに、歴史のあるまちづくりをめざす。(世界遺産登録)</p>
<p>幹線道路沿いの農用地へ、商業施設等が進出できるよう許可の緩和。隣接の市町では店舗など張り付いて発展しているが、犬山は農地のままで全然変わっていない。</p>
<p>宿泊施設を新しく作り直さないと、観光客は増えないと思う。市街化区域を増やすべき。</p>
<p>橋爪上地区上飯田線東側の開発について一時大開発の案等がでていたけれど、犬山市の税収、又、発展のために現状この地区がとも思いますが、なぜ、市側は反対なのかなと思います。旧町造りも良いとは思いますが・・・。</p>
<p>犬山駅周辺他の道路と、電車・立体化及び行き止まり道路等の見直し。</p>
<p>観光地犬山の宣伝をしても道路等整備等の悪い所では人も多くなりません。又、町の中だけではだめだと思う。又、農業用地も整備して他の施設に転用すれば良いと思います。犬山東部の整備、他。</p>
<p>国道41号、五郎丸以東の両側を商用地として活用。又、南北主要幹線道路の両側に対しても商用地として発展させる。</p>
<p>私の住んでいる今井地区は、昔ながらの農村である。道路も狭く、車どうしがすれちがうのも難儀するときもある。可児市 今井 春日井方面の道路整備を早くしてほしい。せっかく小牧東インターチェンジがあるのだから、もっと有効(大型車が楽にすれ違える)に活用すれば、犬山市は発展すると思う。</p>
<p>犬山市民の特産農作物・商工製品など、道の駅を41号線に作ってはどうか。</p>
<p>観光主体の行政も良いが、市内の地域格差がより大きくなっている。道路整備の遅れが、企業誘致の障害となっていると思います。市内の高齢者の労働意欲は皆十分に持っているが働く場所が見当たらない。市の発展を考えると高齢者の労働力をもっと有効に発揮できる場所を提供してほしいと思います。</p>
<p>犬山市は近隣市町村に比べて道路の整備が遅れており、そのため廻りと比べて発展も遅れている。もっと道路を整備するべきです。</p>
<p>観光・工業・商業・農業、それぞれに基本方針(将来ビジョン)を策定し、各部門別に活動組織を作って進める。一方で、サラリーマン等居住地に生産手段を持たない人を「地元(犬山市)のために何をしてもらうか」という方針を出し、進める。今は犬山市民とし、犬山市のため(自分の住んでいる町)何をするかという「目標」がない。犬山市の活性化はいろいろな方策はあるが、まずは地域コミュニティ活動を、市として積極的にバックアップして、これを柱として活動を拡大してはどうかと思う。</p>